

第 7 1 回

トラック運送業界の景況感（速報）

平成 2 2 年 7 月～9 月期

平成 2 2 年 7 ～ 9 月期の国内景気をみると、エコポイントによる買い替え需要、エコカー補助金の駆け込み特需、猛暑効果などを背景に、緩やかながら改善傾向が続いた。その一方で、急速な円高による輸出の伸び悩み、政策効果の息切れなどの懸念も強まっている。

トラック運送業界では、宅配貨物の関連指標はやや悪化したが、一般貨物の関連指標はやや改善するなど、ばらつきがみられた。業界の景況感の判断指標は▲ 4 5 で、前回（▲ 5 0）から 5 ポイント改善した。

ただし平成 2 2 年 1 0 ～ 1 2 月期の見通しでは、判断指標は▲ 6 0 と 1 5 ポイントの悪化が見込まれている。とくに機械関連貨物の急速な悪化が予見されるなど、先行きへの不安が強まっている。

平成 2 2 年 1 0 月 2 9 日

社団法人 全日本トラック協会

1. 今回（平成22年7月～9月期）の状況

(1) 概況

平成22年7～9月期におけるトラック運送業界の景況感は、「悪化」とした事業者は48%（前回50%）、「好転」とした事業者は11%（前回11%）で、判断指標は▲45となり、前回から5ポイント改善した（前回▲50）。今回、指標は改善に転じたものの、持ち直しの大きさは小幅であった。

貨物別では、宅配貨物の関連指標はやや水準を下げている。一般貨物の関連指標は小幅な改善がみられた。

(2) 特別積合せ貨物

宅配貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が49%、「増加」とする事業者が20%で、判断指標は▲44となり、前回（▲35）から9ポイント悪化した。営業収入は「減少」とする事業者が50%、「増加」とする事業者が18%で、判断指標は▲47となり、前回（▲42）から5ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が55%、「増加」とする事業者が8%で、判断指標は▲63となり、前回（▲49）から14ポイント悪化した。

宅配以外の特積貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が40%、「増加」とする事業者が24%で、判断指標は▲23となり、前回（▲21）から2ポイント悪化した。営業収入は「減少」とする事業者が39%、「増加」とする事業者が23%で、判断指標は▲24となり、前回（▲24）と同水準であった。営業利益は「減少」とする事業者が44%、「増加」とする事業者が12%で、判断指標は▲43となり、前回（▲43）と同水準であった。

(3) 一般貨物

一般貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が38%、「増加」とする事業者が22%で、判断指標は▲20となり、前回（▲23）から3ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が39%、「増加」とする事業者が22%で、判断指標は▲22となり、前回（▲31）から9ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が46%、「増加」とする事業者が17%で、判断指標は▲36となり、前回（▲40）から4ポイント改善した。

(4) 運賃水準

運賃水準は、宅配貨物は▲36（前回▲33）、宅配以外の特積貨物は▲30（前回▲36）、一般貨物は▲27（前回▲28）であった。宅配貨物のみ僅かに下落しているが、宅配以外の特積み貨物、一般貨物では小幅上昇の傾向がみられた。

(5) 実働率等

実働率は▲15（前回▲23）、実車率は▲14（前回▲22）で、ともにやや水準を上げている。

雇用状況は▲6（前回▲13）で、ほぼ人手の過不足はない状況となっている。採用状況は▲9（前回▲19）でほぼ増減なし、所定外労働時間は▲12（前回▲24）で持ち直し傾向にある。

保有車両台数は▲18（前回▲23）、貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は▲2

0（前回▲29）で、ゆるやかな改善がみられる。

(6) 地域別および取扱い品目別

業界の景況感を地域別にみると、北海道は前回より水準を下げ、他地域と比べ最も厳しい。中部も前回より水準を下げたが、相対的な水準は良い。九州は前回から改善したものの、相対的な水準は依然として低い。

事業者の規模別では、小規模事業者は悪化が続いている。大規模事業者はほぼ前回と同様の水準が続き、相対的に景況感が良い。

主な取扱い品目別では、建設関連貨物の水準が低く、機械関連貨物は相対的に良い。

2. 今後（平成22年10月～12月期）の見通し

(1) 概況

平成22年10～12月期の見通しは、業界の景況感の判断指標は▲60で、今回から15ポイント悪化する見込み。

(2) 特別積合せ貨物

宅配貨物は、営業利益を中心に今回よりやや改善する見込み。

宅配以外の特積貨物は、輸送数量、営業収入で水準を下げる見込み。

(3) 一般貨物

一般貨物は、輸送数量、営業収入、営業利益とも水準を下げる見込み。

(4) 運賃水準

宅配貨物は僅かに改善、宅配以外の特積み貨物は僅かに悪化、一般貨物は大きな変化はない見込み。

(5) 実働率等

実働率、実車率とも、やや水準を下げ、やや低下となる見込み。

雇用状況は、人手の過不足はない見込み。採用状況、所定外労働時間は、ほぼ横ばいが続く見込み。

保有車両台数はほぼ横ばいが続く見込み。貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）はやや減少となる見込み。

(6) 地域別および取扱い品目別

業界の景況感を地域別にみると、すべての地域で指標悪化が予想され、特に中国は大幅に水準が下がり、最も厳しくなる見込み。北陸信越は下げ幅が小さく、地域別では相対的によい見込み。

事業者の規模別では、各規模とも水準を下げ、小規模事業者に加え中規模事業者も悪化となる見込み。

主な取扱い品目別では、機械関連貨物が大幅に水準を下げ、最も厳しくなる見込み。

3. 特積貨物の概況

項 目		概 況
宅配貨物	輸送数量	前回 3 20 32 30 15 (-35) 今回 0 20 31 34 15 (-44) 見通 0 10 51 29 11 (-40) ・前回よりやや悪化した。地域別では、関東、東北は減少、一方、北陸信越、近畿は横ばいとなっている。 ・今後は僅かに改善するものの、水準としてはやや減少が続く見込み。
	営業収入 (売上高)	前回 1 20 32 32 15 (-42) 今回 0 18 32 35 15 (-47) 見通 0 10 50 31 11 (-42) ・前回よりやや悪化した。地域別では、関東、東北、北海道は減少、一方、四国は横ばいとなっている。 ・今後はやや改善するものの、水準としてはやや減少が続く見込み。
	営業利益	前回 0 14 37 35 14 (-49) 今回 0 8 37 38 17 (-63) 見通 0 8 47 34 11 (-50) ・前回より悪化し、減少となった。地域別では、特に北海道は減少幅が大きい。北陸信越、中国は相対的に減少幅が小さい。 ・今後は改善し、やや減少に戻る見込み。
	運賃・料金の水準	前回 0 3 67 23 7 (-33) 今回 0 4 64 26 7 (-36) 見通 0 3 69 22 7 (-32) ・前回より僅かに下落した。地域別では、九州のみ横ばいに留まった。近畿、北海道は相対的に水準が低い。 ・今後は僅かに改善するものの、水準としてはやや下落が続く見込み。

【調査の概要】

- ◆平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。
今回は平成22年9月24日に配布。
平成22年10月22日到着分までを集計。
- ◆回収率：71.6%

	特 積	一 般	合 計
調査対象	2 5 6	6 4 4	9 0 0
回収数	1 3 3	5 1 1	6 4 4

項 目		概 況	
宅配以外の特積貨物	輸送数量	前回 2 21 40 28 9 (-21) 今回 1 23 36 32 8 (-23) 見通 0 14 46 35 6 (-33)	・ 前回より僅かに水準を下げた。地域別では、九州、東北は相対的に水準が低い。中国はやや増加となっている。 ・ 今後は、悪化するものの、水準としてはやや減少が続く見込み。
	営業収入 (売上高)	前回 2 20 41 29 9 (-24) 今回 1 22 38 31 8 (-24) 見通 0 13 46 34 6 (-34)	・ 前回から変化なしのやや減少であった。地域別では、中国のみやや増加、北陸信越、北海道、近畿は前年並みであった。 ・ 今後は、悪化するものの、水準としてはやや減少が続く見込み。
	営業利益	前回 1 13 40 36 10 (-43) 今回 0 12 43 34 10 (-43) 見通 0 10 45 37 8 (-42)	・ 前回から変化なしのやや減少であった。地域別では、九州、北海道は減少。一方、中国、北陸信越は前年並みであった。 ・ 今後も引き続きやや減少の見込み。
貨物	運賃・料金の水準	前回 0 2 65 29 4 (-36) 今回 0 3 69 22 6 (-30) 見通 0 2 66 26 5 (-34)	・ 前回よりやや改善した。地域別では、四国、中国は前年並み。 ・ 今後は僅かに悪化し、水準としてはやや下落が続く見込み。

凡例

	大幅に	増加・上昇・好転・人手不足	+2点
	やや	増加・上昇・好転・人手不足	+1点
	横ばい		0点
	やや	減少・低下・悪化・人手過剰	-1点
	大幅に	減少・低下・悪化・人手過	-2点

(注1) 各グラフの上段は前回の状況、中段は今回の状況、下段は今後の見通しを示す。

(注2) 各グラフの構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

(注3) グラフ右のカッコ内は業況判断指標。指標は、各設問の回答に対し、増加・好転+1～+2、横ばい0、減少・悪化-1～-2の点数を与え、1事業者当たりの平均を100倍することにより算出している。

A (設問Aの回答者数) = $a_1 + a_2 + a_3 + a_4 + a_5$ (設問Aの選択肢1～5の回答数の和)

指標 = $\{ (+2 \times a_1) + (+1 \times a_2) + (0 \times a_3) + (-1 \times a_4) + (-2 \times a_5) \} \div A \times 100$

4. 一般貨物の概況

項 目	概 況
輸送数量 (全 体)	前回 2 (-23) 今回 1 (-20) 見通 0 (-32) 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ・ 前回から僅かに改善し、ほぼ増減なしとなった。地域別では、北陸信越、中部は相対的に良く、北海道、東北は厳しい。規模別では、規模が小さくなるほど水準が低い。品目別では、機械関連貨物は相対的に良く、建設関連貨物は厳しい。 ・ 今後は今回より水準を下げ、やや減少に戻る見込み。
営業収入 (売上高)	前回 2 (-31) 今回 1 (-22) 見通 0 (-31) 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ・ 前回よりやや改善した。地域別では、北海道は相対的に厳しい。規模別では、規模が小さくなるほど水準が低い。品目別では、機械関連貨物はやや増加となっている。 ・ 今後は今回よりやや水準を下げ、やや減少が続く見込み。
営業利益	前回 1 (-40) 今回 1 (-36) 見通 0 (-41) 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ・ 前回より僅かに水準を上げた。地域別では、北海道、九州、東北は相対的に厳しい。規模別では、規模が小さくなるほど水準が低い。品目別では、機械関連貨物は相対的によいが、建設関連貨物は厳しい。 ・ 今後は今回よりやや水準を下げ、やや減少が続く見込み。
運賃・料金の水準	前回 0 (-28) 今回 0 (-27) 見通 0 (-27) 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ・ 前回と同様にやや下落であった。地域別では、北海道のみ横ばいであった。規模別、品目別の差は小さく、総じてやや下落となっている。 ・ 今後も今回とほぼ同様で、やや下落の見込み。

5. 共通の概況

項 目	概 況
実 働 率	前回 1 14 50 28 6 (-23) 今回 1 17 52 26 4 (-15) 見通 0 12 57 27 4 (-23) ・前回よりやや水準を上げ、前年並みとなった。地域別では北海道、東北、九州、規模別では小規模事業者、品目別では建設関連貨物でやや低下となっている。 ・今後は今回よりやや水準を下げ、やや低下に戻る見込み。
実 車 率	前回 1 12 55 27 5 (-22) 今回 1 15 57 24 4 (-14) 見通 0 11 60 25 4 (-21) ・前回よりやや水準を上げ、前年並みとなった。地域別では北海道、東北、九州、規模別では小規模事業者、品目別では建設関連貨物でやや低下となっている。 ・今後は今回よりやや水準を下げ、やや低下に戻る見込み。
雇用状況 (人手の過不足)	前回 1 10 67 19 3 (-13) 今回 0 11 73 14 2 (-6) 見通 0 12 70 16 2 (-8) ・人手の過不足感はない。地域別では北陸信越ではやや人手不足、一方、東北ではやや過剰感がある。 ・今後も人手の過不足はない見込み。
採用状況	前回 1 6 76 11 7 (-19) 今回 1 6 82 7 4 (-9) 見通 1 7 80 9 5 (-10) ・前回より水準を上げた。地域別では九州のみやや減少であった。 ・今後も引き続きほぼ横ばいの見込み。
所定外労働時間	前回 1 10 58 26 5 (-24) 今回 1 11 66 19 3 (-12) 見通 0 10 68 19 4 (-16) ・前回より水準を上げ、ほぼ増減なしとなった。地域別では九州、北海道、品目別では建設関連貨物はやや減少となっている。 ・今後も引き続きほぼ横ばいの見込み。

項 目	
保有車両台数	前回 0 4 71 23 2 (-23) 今回 0 6 72 21 2 (-18) 見通 0 6 76 17 2 (-15)
・前回よりやや改善し、ほぼ増減なしとなった。地域別では北陸信越、中部、近畿、東北、規模別では大規模事業者でやや減少となっている。 ・今後はほぼ増減なしの見込み。	
貨物の再委託 (下請運送会社への委託割合)	前回 1 12 56 23 9 (-29) 今回 1 11 60 22 6 (-20) 見通 0 9 61 24 6 (-25)
・前回よりやや改善した。地域別では九州、中国は相対的に水準が低い。品目別では建設関連貨物の水準が相対的に低い。 ・今後は今回よりやや水準を下げ、やや減少の見込み。	
経常損益	前回 1 15 42 32 9 (-34) 今回 1 14 44 34 6 (-30) 見通 0 9 47 35 8 (-42)
・前回より僅かに水準を上げたが、引き続きやや悪化。地域別では近畿、中部は相対的に水準が良く、九州、北海道、東北は厳しい。規模別では小規模事業者、品目別では建設関連貨物が相対的に厳しい。機械関連貨物は相対的に良い。 ・今後は今回よりやや水準を下げ、やや悪化が続く見込み。	
業界の景況感	前回 1 10 40 38 12 (-50) 今回 1 10 41 40 8 (-45) 見通 0 6 39 45 11 (-60)
・前回より5ポイント水準を上げたが、引き続きやや悪化となっている。地域別では北海道、規模別では小規模事業者、品目別では建設関連貨物は悪化であった。 ・今後は15ポイント水準を下げ、悪化に転じる見込み。	

6. 事業者特性格の特徴

事業者特性	特 徴																																												
① 地域（注4）	・北海道は、全国順位 6 位から 9 位に下がり、景況感はやや悪化。 ・東北は、全国順位 7 位のままだが、景況感はやや改善。 ・北陸信越は、全国順位 2 位のままだが、景況感はやや改善。 ・関東は、全国順位 3 位から 6 位に下がったが、景況感は僅かに改善。 ・中部は、全国順位 1 位を継続したが、景況感は悪化。 ・近畿は、全国順位 4 位のままだが、景況感はやや改善。 ・中国は、全国順位 8 位から 5 位に上がり、景況感は改善。 ・四国は、全国順位 5 位から 3 位に上がり、景況感は改善。 ・九州は、全国順位 9 位から 8 位に上がり、景況感は改善。 ◆「業界の景況感」の業況判断指標の地方ブロック別順位◆ <table><tr><th></th><th>H 2 2 年 4～6 月期</th><th>H 2 2 年 7～9 月期</th><th>H 2 2 年 10～12 月期見通し</th></tr><tr><td>1 位</td><td>中 部</td><td>中 部</td><td>北 陸 信 越</td></tr><tr><td>2 位</td><td>北 陸 信 越</td><td>北 陸 信 越</td><td>四 国</td></tr><tr><td>3 位</td><td>関 東</td><td>四 国</td><td>近 畿</td></tr><tr><td>4 位</td><td>近 畿</td><td>近 畿</td><td>中 部</td></tr><tr><td>5 位</td><td>四 国</td><td>中 国</td><td>関 東</td></tr><tr><td>6 位</td><td>北 海 道</td><td>関 東</td><td>東 北</td></tr><tr><td>7 位</td><td>東 北</td><td>東 北</td><td>北 海 道</td></tr><tr><td>8 位</td><td>中 国</td><td>九 州</td><td>九 州</td></tr><tr><td>9 位</td><td>九 州</td><td>北 海 道</td><td>中 国</td></tr></table> — 文字の凡例 — 標準文字: やや悪化 ゴシック: 悪化 反転文字: 強い悪化 <tr><td>② 規模（注5）</td><td> ・業界の景況感は、小規模事業者は悪化が続いている。大規模事業者はほぼ前回と同様の水準が続き、相対的に景況感は良い。 </td></tr> <tr><td>③ 品目（注6）</td><td> ・消費関連貨物は、前回からやや水準を上げたが、引き続きやや減少となっている。一般貨物の輸送数量では、食料工業品は水準を上げたが、農水産品はやや悪化した。今後は水準を下げる見込み。 ・建設関連貨物は、前回とほぼ同様で品目別で最も悪い。一般貨物の輸送数量では、特に鉱産品の水準が低い。今後も低水準が続く見込み。 ・機械関連貨物は、品目別では相対的に最も良い。一般貨物の輸送数量では、輸送機械はやや増加、その他機械、電気機械は前回から水準を上げた。今後は水準を大幅に下げる見込み。 ・その他貨物は前回とほぼ同様で、引き続きやや減少となっている。一般貨物の輸送数量では、金属製品はやや増加となっている。今後は水準を下げる見込み。 </td></tr>		H 2 2 年 4～6 月期	H 2 2 年 7～9 月期	H 2 2 年 10～12 月期見通し	1 位	中 部	中 部	北 陸 信 越	2 位	北 陸 信 越	北 陸 信 越	四 国	3 位	関 東	四 国	近 畿	4 位	近 畿	近 畿	中 部	5 位	四 国	中 国	関 東	6 位	北 海 道	関 東	東 北	7 位	東 北	東 北	北 海 道	8 位	中 国	九 州	九 州	9 位	九 州	北 海 道	中 国	② 規模（注5）	・業界の景況感は、小規模事業者は悪化が続いている。大規模事業者はほぼ前回と同様の水準が続き、相対的に景況感は良い。	③ 品目（注6）	・消費関連貨物は、前回からやや水準を上げたが、引き続きやや減少となっている。一般貨物の輸送数量では、食料工業品は水準を上げたが、農水産品はやや悪化した。今後は水準を下げる見込み。 ・建設関連貨物は、前回とほぼ同様で品目別で最も悪い。一般貨物の輸送数量では、特に鉱産品の水準が低い。今後も低水準が続く見込み。 ・機械関連貨物は、品目別では相対的に最も良い。一般貨物の輸送数量では、輸送機械はやや増加、その他機械、電気機械は前回から水準を上げた。今後は水準を大幅に下げる見込み。 ・その他貨物は前回とほぼ同様で、引き続きやや減少となっている。一般貨物の輸送数量では、金属製品はやや増加となっている。今後は水準を下げる見込み。
	H 2 2 年 4～6 月期	H 2 2 年 7～9 月期	H 2 2 年 10～12 月期見通し																																										
1 位	中 部	中 部	北 陸 信 越																																										
2 位	北 陸 信 越	北 陸 信 越	四 国																																										
3 位	関 東	四 国	近 畿																																										
4 位	近 畿	近 畿	中 部																																										
5 位	四 国	中 国	関 東																																										
6 位	北 海 道	関 東	東 北																																										
7 位	東 北	東 北	北 海 道																																										
8 位	中 国	九 州	九 州																																										
9 位	九 州	北 海 道	中 国																																										
② 規模（注5）	・業界の景況感は、小規模事業者は悪化が続いている。大規模事業者はほぼ前回と同様の水準が続き、相対的に景況感は良い。																																												
③ 品目（注6）	・消費関連貨物は、前回からやや水準を上げたが、引き続きやや減少となっている。一般貨物の輸送数量では、食料工業品は水準を上げたが、農水産品はやや悪化した。今後は水準を下げる見込み。 ・建設関連貨物は、前回とほぼ同様で品目別で最も悪い。一般貨物の輸送数量では、特に鉱産品の水準が低い。今後も低水準が続く見込み。 ・機械関連貨物は、品目別では相対的に最も良い。一般貨物の輸送数量では、輸送機械はやや増加、その他機械、電気機械は前回から水準を上げた。今後は水準を大幅に下げる見込み。 ・その他貨物は前回とほぼ同様で、引き続きやや減少となっている。一般貨物の輸送数量では、金属製品はやや増加となっている。今後は水準を下げる見込み。																																												

（注4）地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。

（注5）規模別分類

大規模事業者：101両以上 中規模事業者：21両以上100両以下 小規模事業者：20両以下

（注6）品目別分類

消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など

建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品（セメント等）など

機械関連貨物：電気機械（家電含む）、輸送機械（自動車等）など

そ の 他 貨 物：石炭、原油、金属、石油、化学、紙・パルプなど

7. 景況感一覽表

		特積貨物						一般貨物			雇用関連			総合計		
		宅配貨物			宅配以外の 特積貨物											
全 体		↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
地 域	北海道	↘	↓	↓	→	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	東北	↓	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	↘	↘	↘
	北陸信越	→	↘	↘	↘	→	↘	↘	→	→	→	→	→	↘	→	→
	関東	↘	↓	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	中部	↘	↘	↘	→	↘	↘	→	→	↘	↘	→	→	↘	↘	↘
	近畿	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	↘	↘	↘
	中国	↘	↘	↘	→	→	↘	↘	→	↘	↘	→	→	↘	→	↘
	四国	↘	↘	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	→
	九州	↓	↘	↘	↓	↘	↓	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
事業 者 規 模	小規模事業者	↓	↓	↘	↘	↓	↓	↘	↘	↘	↘	→	→	↘	↘	↘
	中規模事業者	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	大規模事業者	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	↘	→	→	→	→	→	↘
取 り 扱 い 品 目	消費関連貨物	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	建設関連貨物	→	→	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	↘	↘	↘
	機械関連貨物	↘	↘	↓	↘	→	↘	→	→	↘	→	→	→	↘	→	↘
	その他貨物	↓	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	↘	↘	↘

(注7) 各項目は、関連する判断指標(前年同期に対する水準)から平均値を算出。

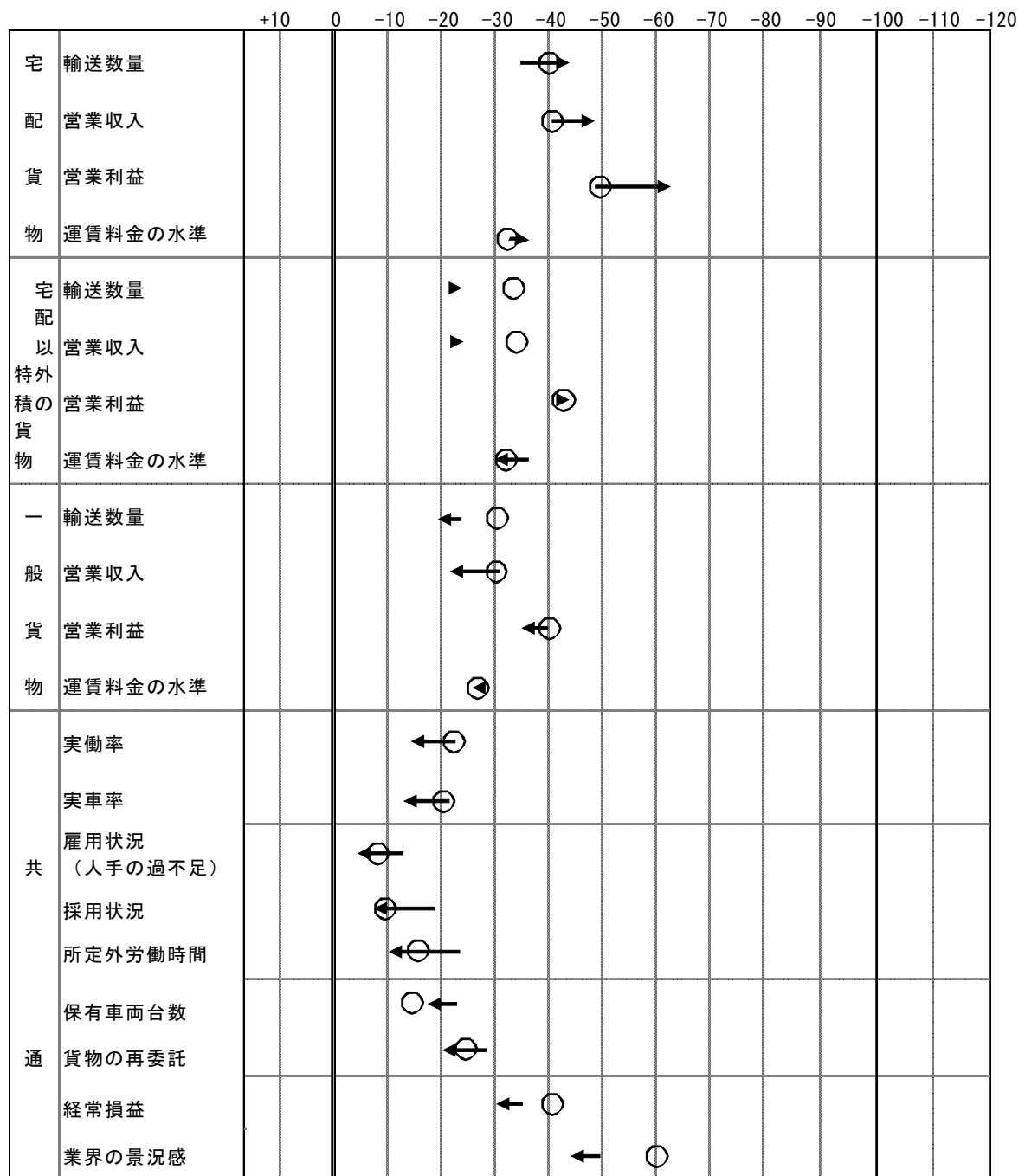
貨物別については、輸送数量、営業収入、営業利益、運賃水準の平均値で判断。

凡例・各欄は、左:前回(4-6月) 中央:今回(7-9月) 右:見通し(10-12月)

・矢印と判断指標の対応

判断指標	...	-100	...	-60	...	-20	...	+20	...	+60	...	+100	...
矢 印		↓		↓		→		→		↗		↑	

8. 業況判断指標の前回調査（平成22年4月～6月期）からの変化



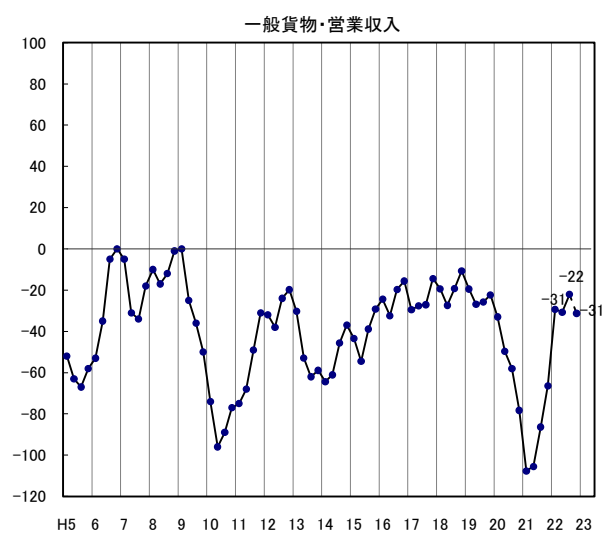
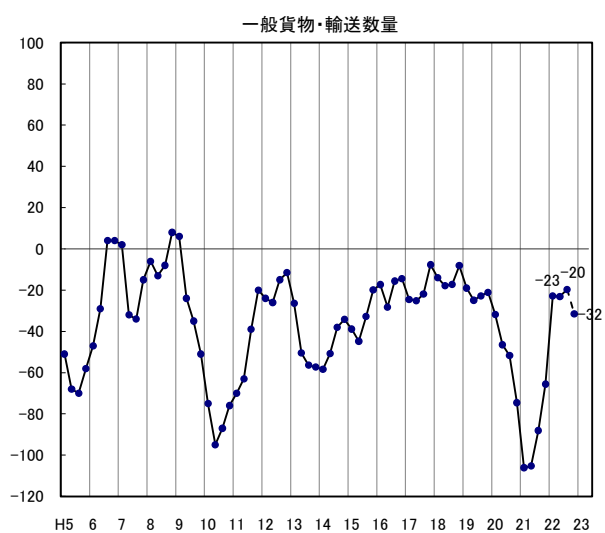
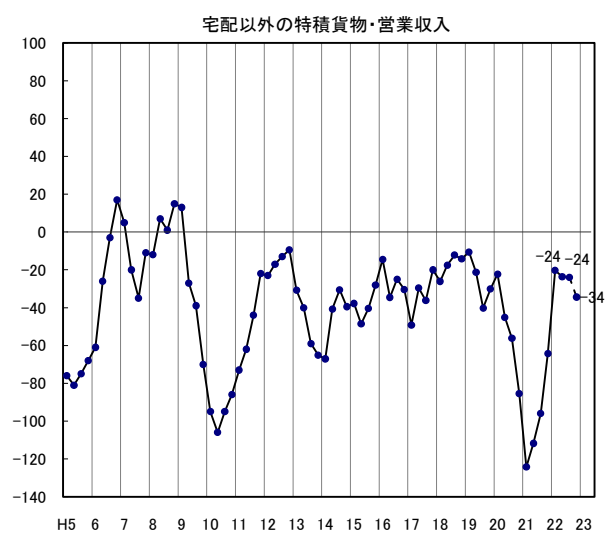
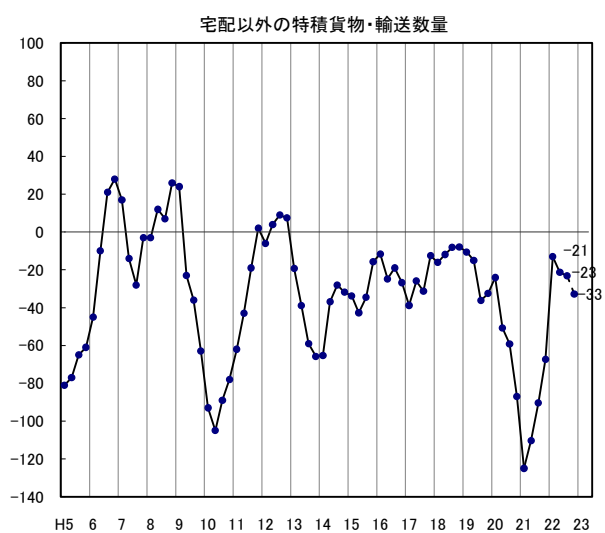
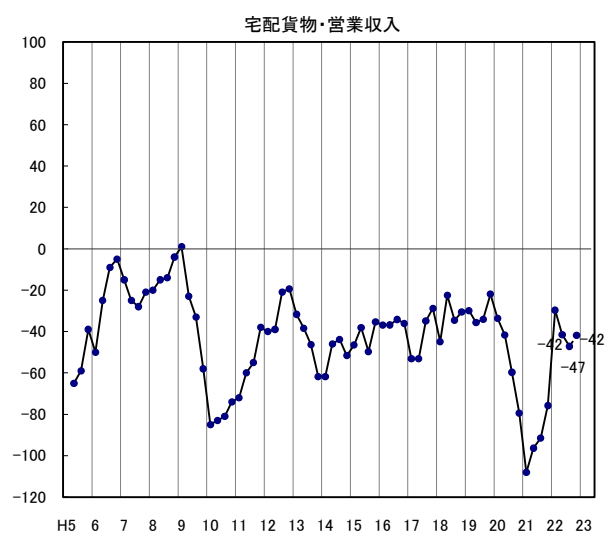
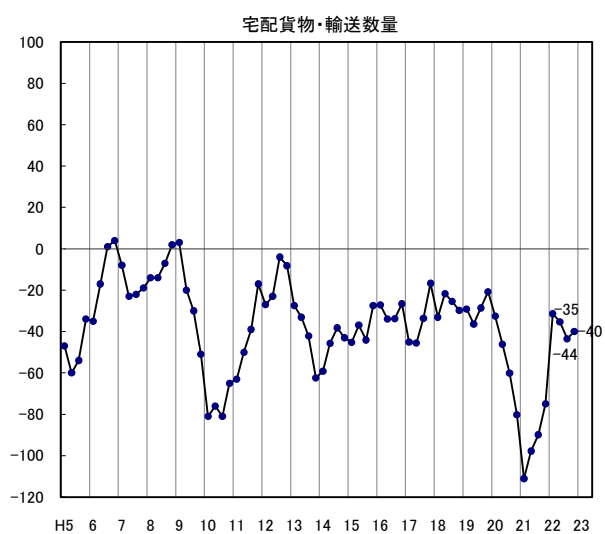
凡 例

矢元：
4-6月期の実績

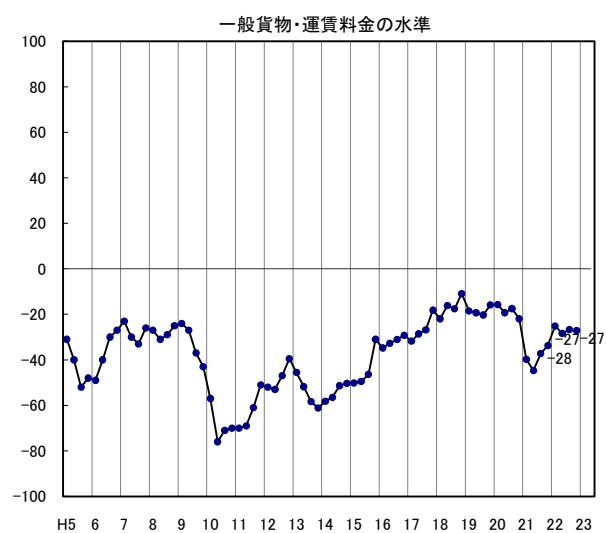
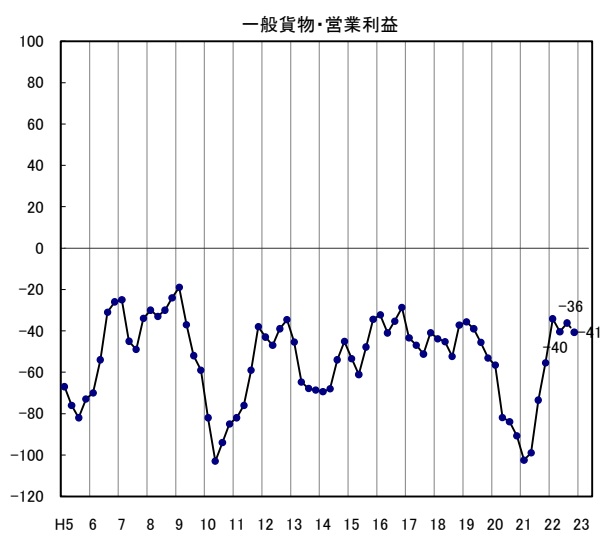
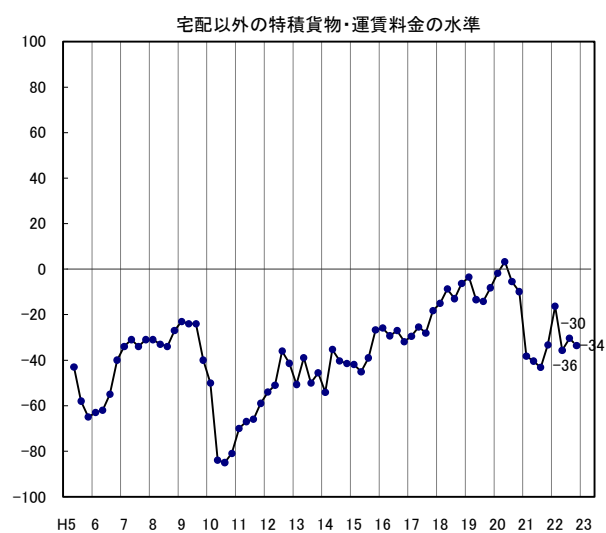
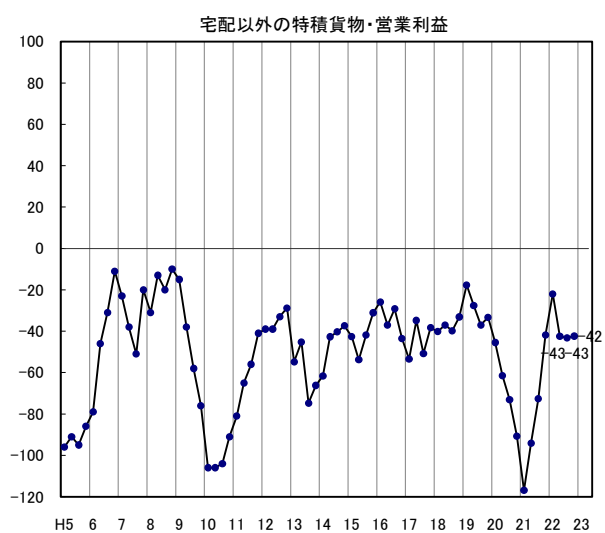
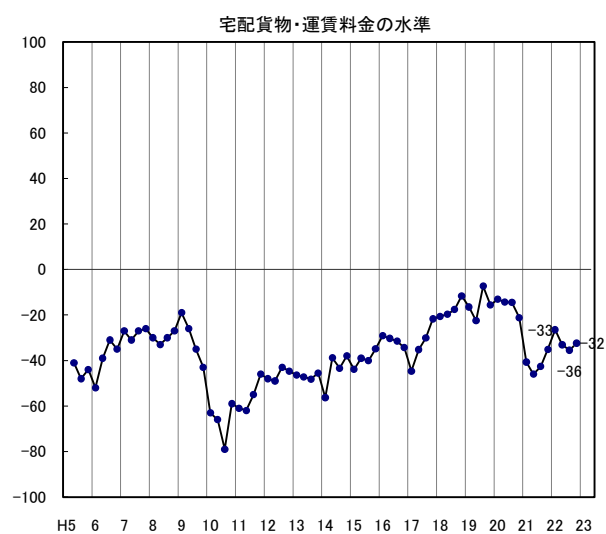
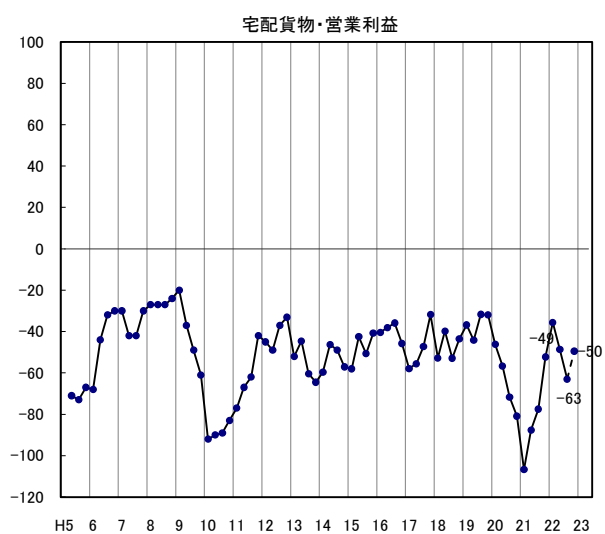
矢先：
7-9月期の実績

白丸：
10-12月期の見通し

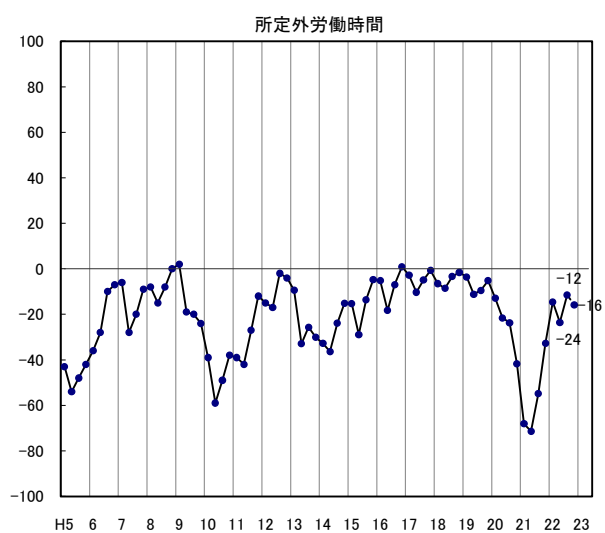
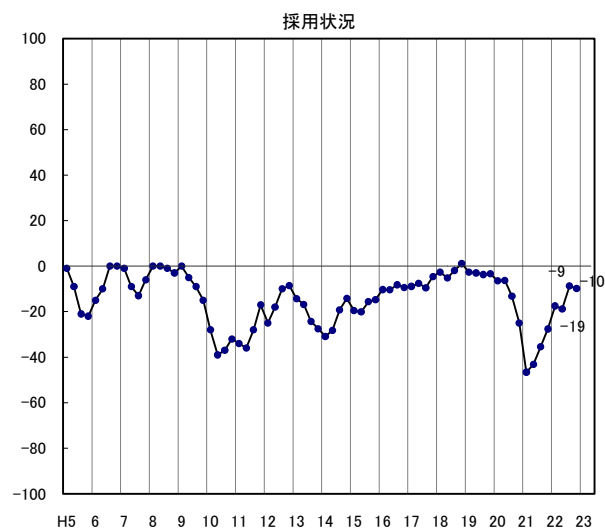
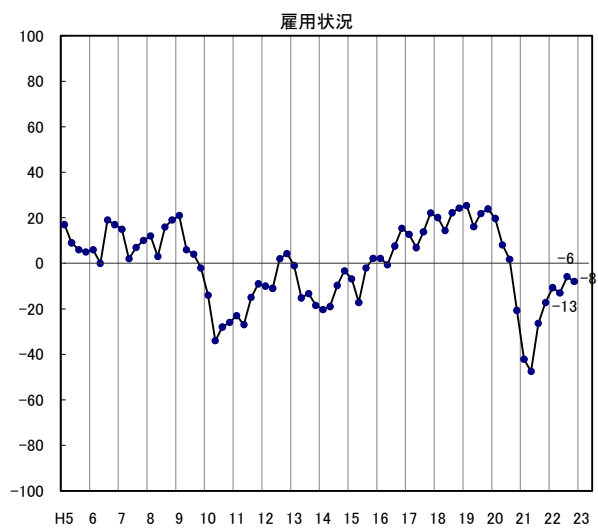
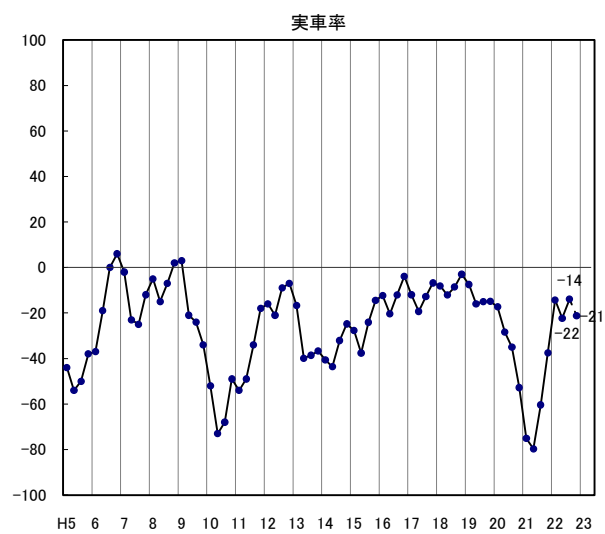
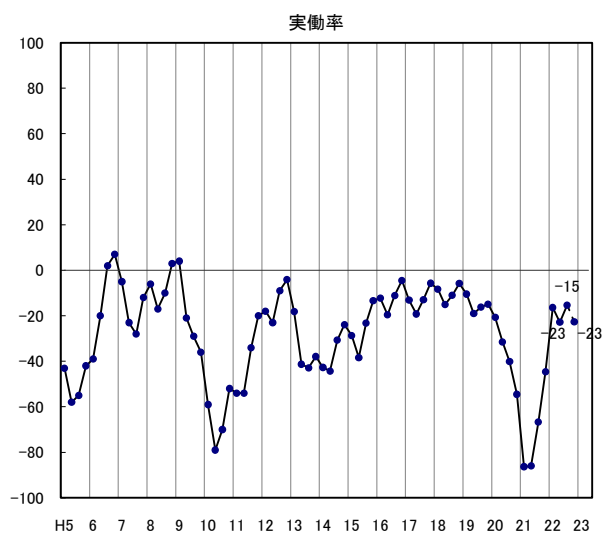
業 況 判 断 指 標 の 推 移
平成5年第1四半期～平成22年第3四半期実績、平成22年第4四半期見通し



業況判断指標の推移
平成5年第1四半期～平成22年第3四半期実績、平成22年第4四半期見通し

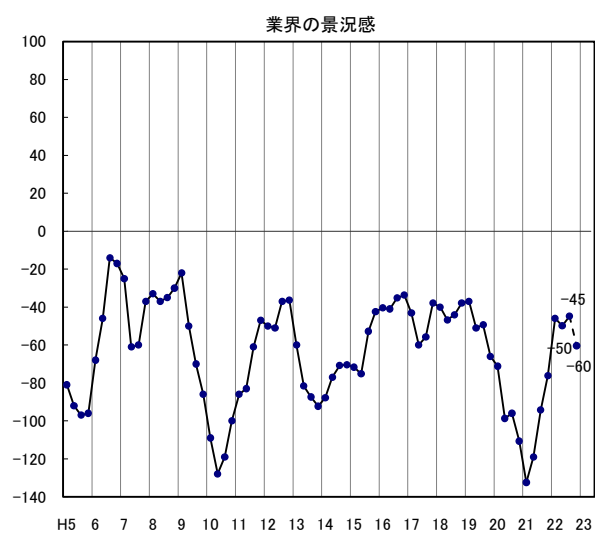
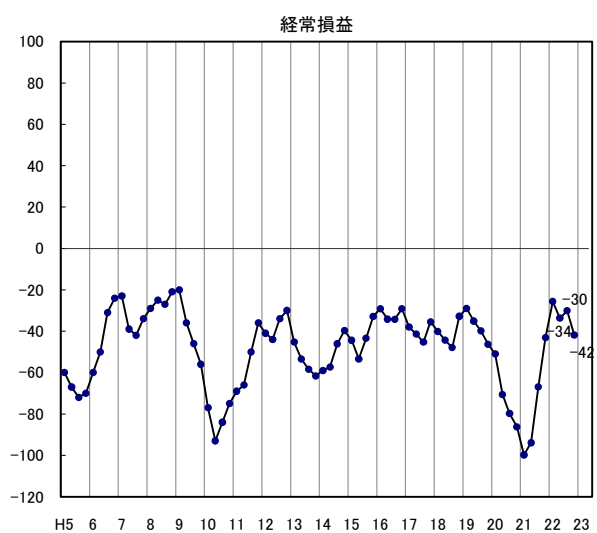
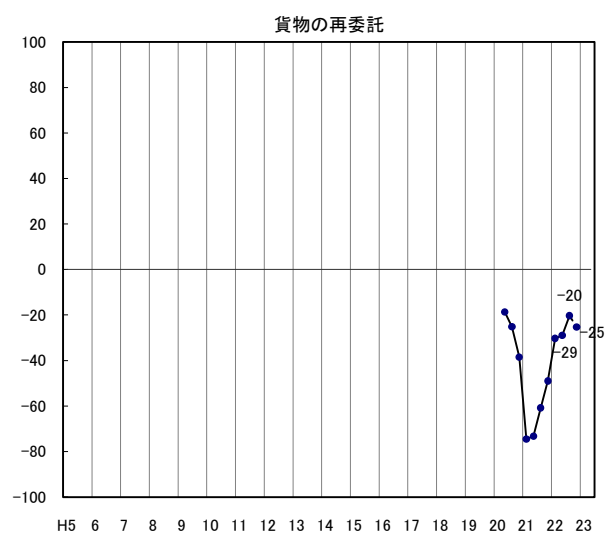
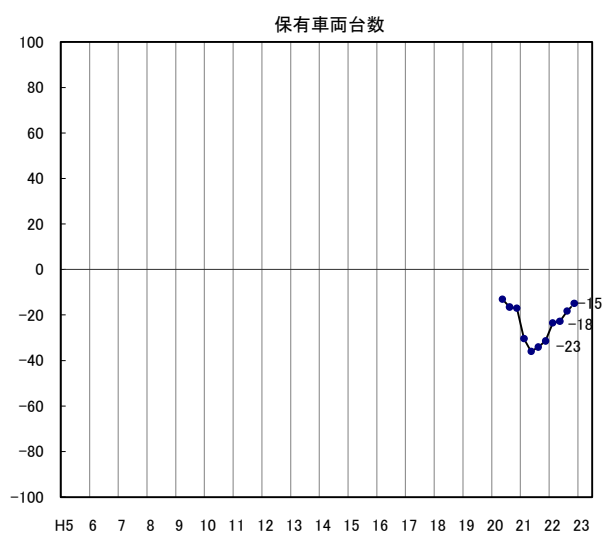


業 況 判 断 指 標 の 推 移
平成5年第1四半期～平成22年第3四半期実績、平成22年第4四半期見通し



業況判断指標の推移

平成5年第1四半期～平成22年第3四半期実績、平成22年第4四半期見通し



業 況 判 断 指 標 の 推 移
平成5年第1四半期～平成22年第3四半期実績、平成22年第4四半期見通し

